

病理

Pathology

【1】期 間 各コース内で実施

【2】担当教員（◎は主責任者）

病理学講座教員

責任者 ◎門田球一（教授，器官病理学）

新野大介（教授，病態病理学）

【3】授業の目的

- 1) 臨床医学の理解や実際の診療で必要とされる主要疾患の病理学的な原因や発症機序、形態学的変化を説明できる能力を身につける。
- 2) 疾病および患者に関わる問題を病理学的にとらえて解決するために、臨床的問題と病理学所見を結びつける能力を養う。

【4】授業の到達目標

- 1) 病理学総論の基本的知識、思考方法を確実に身につける。
- 2) 主要な疾病の原因、成り立ち、形態学的変化を病理学的に説明できる。
- 3) 肉眼的および顕微鏡的な形態学的変化を観察し、的確に記述できる。
- 4) 記述した形態学的変化をもとに主要な疾患の診断ができる。

【5】成績評価の方法

下記の①②を総合的に評価して成績を評価する。

①病理学講義・実習における学習態度と課題の提出内容

②病理学講義・実習の終了後に実施される試験の成績

【6】教科書・参考書

病理学の教科書や病理組織アトラスなどの参考書を参照して、学習することが望ましい。下記が代表的な参考書です。

ロビンス基礎病理学（豊國伸哉 他訳、丸善出版）

標準病理学（坂本穆彦 他編、医学書院）

解明病理学（青笹克之 他編、医歯薬出版）

病理組織の見方と鑑別診断（赤木忠厚 他監修、医歯薬出版）

ロビンス&コトラン病理学アトラス（鷹橋浩幸 他監訳、エルゼビアジャパン）

アンダーソン病理学カラーアトラス（山口和克 監訳、MEDSi）